

7. 教育センター

教育センターの目的は、卒前教育、卒後教育、生涯学習の連続性の中で、大学、附属病院を横断する教育活動を支援・実施することである。10月1日からは、初期臨床研修関係業務及び鏡視下トレーニング室関係業務を臨床研修センターに移管した。

平成20年度の本センター活動については、大学の基本方針、運営計画に基く活動として、下記事業を実施した。

- 1) 医療安全管理の推進においては、医療の安全教育ワークショップを平成20年度には、本院4回(391名)、青戸病院2回(113名)、第三病院2回(150名)、柏病院2回(142名)合計10回、796名の参加を得て開催した。なお、本ワークショップは、各分院の医療安全に結びつくようなWSを求める声が挙がり、平成21年度より、チーム医療構築ワークショップ委員会として、主管を管理課医療安全推進室としてチーム医療構築ワークショップが開催されることになった。これにより、本センター主管のSD教育は終了した。開催回数55回、総参加人数4,607名。

本事業は、17特色GP事業：テーマ「多くの職種が参加する医療者教育」の取組内容とした。

- 2) 広報活動の充実においては、本センターが主管している公開講座推進委員会主導のもと、4附属病院の独自性、自主性を保ちつつ国の私学助成の経常費補助金を活用して、青戸病院公開健康セミナー2回(6月、11月)、第三病院公開健康セミナー2回(10月、3月)、柏病院地域医療連携フォーラム1回(6月)、他地方公共団体やNHK放送博物館等共催で、公開講座を開催支援した。

本学が主催、共催および協力した公開講座は、年間23回開催された。

これらの取り組みについては、大学の公開講座ホームページに掲載し、学内から情報の提供を広く呼びかけ情報発信も行なっている。

また、昨年度から取り組みを行なうこととした独立行政法人日本学術振興会が文部科学省の科学研究費補助金にて行われた研究内容を、中学生・高校生を対象に、科学(学術)がもつ意味に対する理解を深めてもらう機会を提供することを目的としている「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室～KAKENHI」の下記1事業に取組み、昨年度に引き続き好評を得た。

日 時：8月1日(金)、会場：7階講堂

応募者：70名、定員：30名、参加者59名、協力教員・学生：25名

講座内容：「脳の不思議を科学する！」

講師：加藤総夫教授(総合医科学研究センター神経科学部神経生理学研究室)

- 3) 本学学生、教職員の診療技能教育の充実において、本センターが主管しているスキルス・ラボ運営委員会のもと、学部学生、研修医、看護部等がスキルス・ラボの施設および機器備品貸出を利用し、診療技能教育の向上に活用した。西新橋校では32点の貸出機器備品を管理し、年間335件利用があった。国領校では17点の貸出機器備品を管理し、年間81件利用があった。
- 4) 4機関合同の教育活動の支援において、本センターが主管しているテレビ会議運営委員会主導のもと、4機関を接続したテレビ会議システムを利用して、4病院合同リスクマネジメントシンポジウムを年2回(11月、3月)、4病院合同転倒・転落の勉強会(2月)、第2回慈恵医大褥瘡セミナー(2月)、東大・早大・慈恵共同研究発表会(11月)等の教育活動を支援し、年間9回テレビ会議システムの利用があった。
- 5) 戦略的教育資金(公的資金)獲得において、文部科学省戦略的大学連携支援事業に東京慈恵会医科大学(主管)、昭和大学、東京医科大学、東邦大学の4大学で下記取組の申請を行い、採択された。

取組名称：東京都内4医療系大学連携によるカリキュラム開発と地域医療者生涯学習コース提供事業実績としては、本センターが主管して4大学責任者会議を開催した。また、第1回戦略的大学連携支援事業公開シンポジウム「医療系大学の電子教材の

共有を目指して」を3月14日（土）に南講堂で開催し、国内医療系大学11大学の49名の参加があった。

6) 特色ある教育・研究の推進においては、特色ある大学教育支援プログラム（特色 GP）の平成17年・19年度採択事業と現代的教育ニーズ支援プログラム（現代 GP）の平成18年度採択事業と平成19年度地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム（医療人 GP）の事業推進を行った（文部科学省 GP 事業）。開催したセミナー、ワークショップ等は次の通り。

(1) 17特色 GP 事業：テーマ「多くの職種が参加する医療者教育」

- ・医学教育セミナー『医療コミュニケーション』

日 時：平成20年10月30日（木）20名参加。会場：大学1号館5階講堂
講演内容：医療コミュニケーションと患者アウトカム

(2) 18現代 GP 事業：テーマ「現代卒前教育教材から生涯継続学習教材へ」

- ・医学教育セミナー『ITを活用した医療者教育が拓く未来』

日 時：平成20年11月11日（火）22名参加。会場：西講堂
講演内容：「ITを活用した医療者教育が拓く未来」他

- ・インターネットを利用した遠隔教育、自己学習の改善において、以下のeラーニングによる教育支援を行った。

医学科学生を対象とした教育において、1年次はコンピュータ演習（情報処理）、3年次は放射線基礎医学、4年次は医学総論Ⅳ演習（患者・医師関係と面接）、診断系・治療系・検査系実習、臨床医学演習（テュートリアル）、画像診断学、臨床腫瘍学、3年次～6年次はCPCを支援した。

看護学科学生を対象とした教育において、1年次はコンピュータ演習、2年次は情報科学、生活過程援助論Ⅱ-2、3年次は在宅ケア実習、4年次は総合実習を支援した。

また、地域医療者の生涯学習として、「緩和医療」コース、「在宅緩和ケア」コース、看護師のための「鏡視下手術機器セッティング」、研修医のための「症例検討会」を支援した。

(3) 19特色 GP 事業：テーマ「地域の教育力を活かす医療者教育」

- ・家庭医実習指導医 FD ワークショップ（第42回）

日 時：平成20年10月26日（日）6名参加。会場：E会議室
講義内容：「家庭医実習指導医 FD」福島統（教育センター長 教授）他

- ・在宅ケア実習指導者 FD ワークショップ（第43回）

日 時：平成20年11月1日（土）14名参加。会場：E会議室
講義内容：「医療者コミュニケーション・学生指導で困ったこと」

柳澤 裕之（環境保健医学講座教授）、福島統（教育センター長 教授）

- ・地域医療者 FD プログラム

日 時：5月31日（第4回）～2月21日（第10回）の7回開催、計135名参加。

会 場：本学西講堂、スキルス・ラボ講義・実習内容：「シミュレータ（Mr. Lung）による聴診」他、福島統（教育センター長教授）他

(4) 19医療人 GP 事業：テーマ「プライマリケア現場の臨床研究者の育成」

- ・「プライマリケア現場の臨床研究者の育成」ワークショップ

日 時：5月3-4日、9月13-14日、1月31-1日の3回開催、受講生12名が各回参加。

会 場：セミナーハウス クロスウェーブ東中野

講義内容：「疫学・臨床研究」松島雅人（教育センター准教授）他

- ・特別セミナー「質的研究～はじめの一步～」

日 時：8月17日開催、44名参加。会場：5階講堂

講義内容：「質的研究について」大谷尚（名古屋大学教授）

事例発表 斉藤康洋（上田クリニック院長）